

# サステナビリティ経営

azbilグループの基幹事業であるオートメーション事業は、建物、工場、ライフラインといった領域の「空間の質」を向上させながら、資源・エネルギー使用量を適正に抑制することが可能であり、私たちの事業を拡大することが地球環境負荷の低減につながります。azbilグループは以下のサステナビリティの方針の下、地球環境に貢献し、持続可能な社会へ「直列」に貢献するよう引き続き取り組んでいきます。

## azbilグループのサステナビリティの方針

創業時の精神である「人間の苦役からの解放」の考え方を、人間の幸福のために社会に貢献する価値観として受け継ぎ、グループ理念である「人を中心としたオートメーション」の実践を通じて、あらゆるステークホルダーと信頼関係を構築することにより継続的な企業価値の向上を図り「人々の安心、快適、達成感」を実現するとともに、地球環境に貢献し、持続可能な社会へ「直列」に貢献する

## マテリアリティの特定プロセス

サステナビリティ経営を達成するために、グループ理念をもとに「機会」と「リスク」の両面から、ダブルマテリアリティ（環境・社会が企業に与える財務的な影響と、企業活動が環境・社会に与える影響という二つの側面から重要性を評価する考え方）を取り入れ、2022年8月、長期にわたり取り組む重点課題として5分野10項目のマテリアリティを特定しました。その後、2023年度に外部有識者との議論・確認を経て経営会議および取締役会で妥当性を再確認しました。

### STEP 1

#### 課題の把握と抽出

各種ガイドライン（SDGs、GRIスタンダード、SASBスタンダードなど）のほか、ESG調査機関（FTSEなど）の評価項目を参照して、社会課題を網羅的に抽出

### STEP 2

#### 課題の優先順位付け

マテリアリティ候補に対して、ステークホルダー・エンゲージメントを通じて得られた重要課題や外部有識者からの助言も踏まえ、ダブルマテリアリティの視点で優先順位付けを実施  
※右ページ「重要性の評価」

### STEP 3

#### 妥当性の確認

外部有識者との議論・確認を経て、経営会議および取締役会を通じた妥当性の確認と承認

### STEP 1

各種ガイドライン（SDGs、GRIスタンダード、SASBスタンダードなど）をベースにして社会課題を網羅的に抽出し、マテリアリティ候補としました。

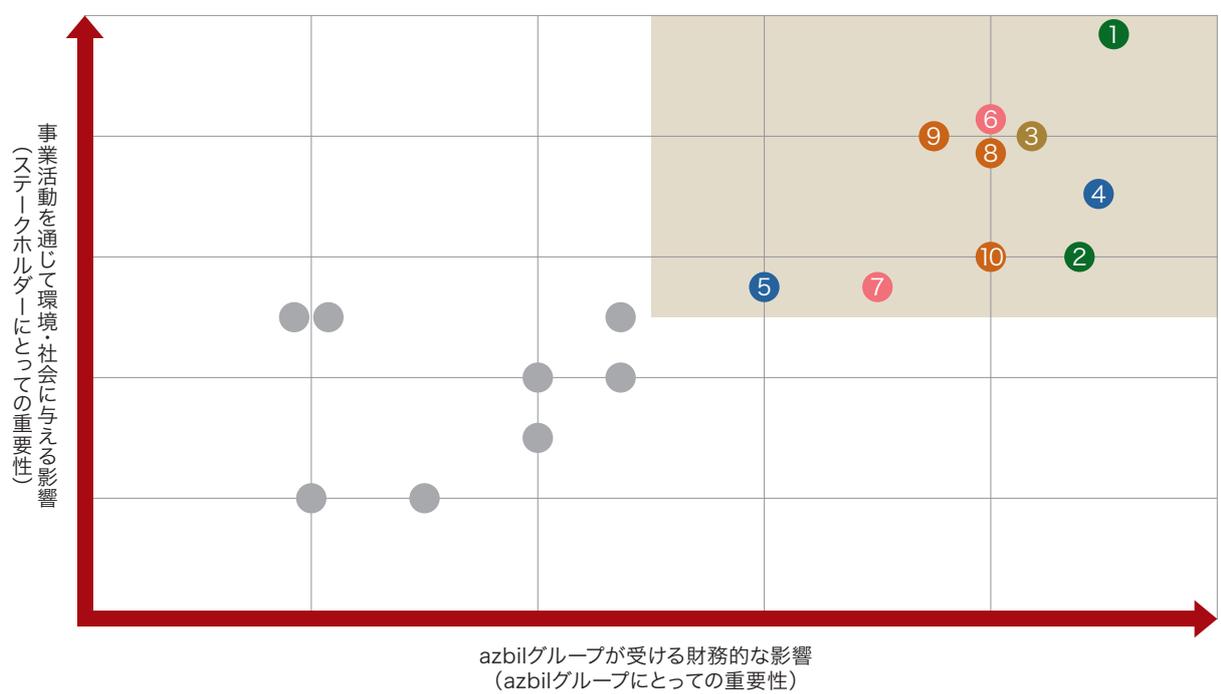
### STEP 2

マテリアリティ候補に対して、各種ステークホルダー・エンゲージメントを通じて得られた複数の重要課題や、外部有識者からの助言も踏まえダブルマテリアリティの視点で「機会」と「リスク」を識別し、重要度を評価しました。azbilグループまたはステークホルダーにとって重要性がより高い項目から、5分野10項目のマテリアリティを特定しました。なお、10項目に入らなかったものとして、水資源、生物多様性、環境汚染等の項目が挙げられます。

### STEP 3

外部有識者との議論・確認を経た後、経営会議および取締役会を通じて妥当性を確認し、2023年度にazbilグループのマテリアリティを再確認しました。

重要性の評価



マテリアリティ

達成を目指す姿

環境	① 気候変動	脱炭素社会の実現に向けた環境課題への貢献
	② 資源循環	地球環境に配慮した製品・サービスを通じた資源課題への貢献
イノベーション	③ イノベーション	安心・快適な社会に向けた新しいオートメーションの継続的な追求
社会	④ サプライチェーン	サプライチェーンにおけるCSR価値(環境・人権等)の共有
	⑤ 地域社会への貢献	地域に根差した活動を通じ住み続けられる地域社会への貢献
人材	⑥ 人権・安全・健康	「人を中心」とした価値観に基づく企業活動、健幸経営の推進
	⑦ 学習と人材育成	「学習する企業体」の企業風土の醸成と教育基盤の強化
ガバナンス	⑧ 商品安全・品質	お客様の安全・安心を第一とする高品質な製品・サービスの提供
	⑨ コーポレート・ガバナンス	透明性の高い経営を通じた企業価値の継続的向上
	⑩ コンプライアンス	高い企業倫理に基づく社会的責任の遂行

サステナビリティ経営推進体制

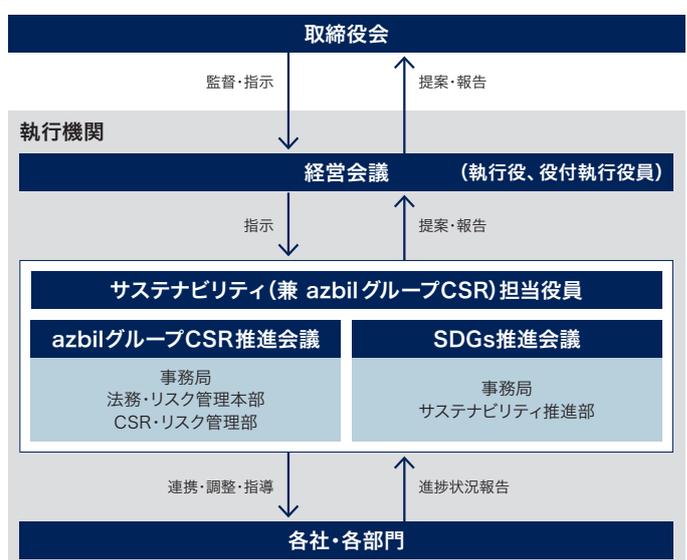
azbilグループでは、グループ全体でサステナビリティの取組みを検討・推進する体制を整えています。

サステナビリティ全般に関わる担当役員を据え、それぞれに設けた専門組織を事務局とし、「azbilグループCSR推進会議」および「SDGs推進会議」を開催、これらの会議で確認された進捗状況・課題を経営会議および取締役会に報告しています。

機会管理においては、経営層が実施する全社事業検討会において状況や課題を共有し、着実な実行に向けて議論等を行うことで、戦略的な事業展開につなげています。

リスク管理においては「azbilグループCSR推進会議」のほか、「azbilグループ総合リスク委員会」にて、一連のリスクマネジメント活動に対して経営層による状況確認と方針決定を行います。

※ azbilグループCSR推進会議、SDGs推進会議の両会議は、いずれもazbilグループ全体で取り組んでいます。それぞれの会議の実施内容・開催頻度等の詳細につきましては、azbil ESGデータブックをご覧ください。



# マテリアリティとazbilグループSDGs目標

特定したマテリアリティに基づき、事業や企業活動に関する7つの項目については、SDGsの領域において目標を「azbilグループSDGs目標」として具体的に2030年度に向けたターゲットを定めるとともに、企業が社会に存立するうえで果たさなければならない基本的責務である3つの項目については、CSR活動において具体的な目標を定めております。それらの目標の達成に向けて様々な取組みを行うことで、サステナビリティ経営を推進しております。

マテリアリティ		azbilグループSDGs目標	
		基本目標	ターゲット
<b>環境</b> 	気候変動	I 環境・エネルギー	<b>エネルギー課題の解決(脱炭素社会に向けて)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>お客様の現場におけるCO<sub>2</sub>削減効果 <b>340万トンCO<sub>2</sub>/年</b><sup>※1</sup></li> <li>温室効果ガス排出削減目標                             <ul style="list-style-type: none"> <li>事業活動に伴うGHG<sup>※2</sup>排出量を <b>55%削減</b><sup>※3</sup></li> <li>サプライチェーン全体のGHG排出量を <b>20%削減</b><sup>※4※5</sup></li> </ul> </li> </ul>
	資源循環		
<b>イノベーション</b> 	イノベーション	II 新オートメーション	<b>お客様の持続可能な生産現場・職場環境、さらなる安心・快適・達成感の実現に向け、生産空間・居住空間(ビル建物)・生活空間における「計測の高度化」、「データ化」、「自律化」等により、社会が求める時々の課題を解決、付加価値を創出</b>
<b>社会</b> 	サプライチェーン	III サプライチェーン、社会的責任	<b>お客様、お取引先様と共に社会的責任を果たす(価値共有を目指したアズビルCSR活動の拡充)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>お取引先様と共に、SDGsを共通目的として連携し、<b>サプライチェーンにおけるCSRの価値共有</b>を実現</li> </ul>
	地域社会への貢献		
<b>人材</b> 	人権・安全・健康	IV 健幸経営、学習する企業体	<b>健幸経営(働きがい、健康、ダイバーシティ&amp;インクルージョン)の実現(柔軟な働き方と総労働時間削減、社員の心身の健康の維持・増進、多様な人材が能力発揮できる場づくり)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>azbilグループで働くことに満足している社員 <b>65%以上</b><sup>※17</sup></li> <li>2024年までに女性活躍ポイント<sup>※18</sup>を <b>2倍</b>にする(2017年比)</li> </ul>
	学習と人材育成		
<b>ガバナンス</b> 	商品安全・品質	企業が社会に存立するうえで果たさなければならない基本的責務	
	コーポレート・ガバナンス		
	コンプライアンス		

※1 2030年度の電力排出係数は、2019年当時のエネルギー基本計画を参考に当社独自の推計値を採用しています。

※2 温室効果ガス(CO<sub>2</sub>など)

※3 2017年基準

※4 2017年基準

※5 2023年12月、新たな目標として、2030年33%削減(2017年比)をSBTiに申請しました。

※6 脱炭素化・資源循環・生物多様性保全等の幅広い環境活動が統合的に事業に取り込まれた経営

※7 地球規模の環境課題(脱炭素化、資源循環、生物多様性保全)解決に貢献する製品の創出・提供を目指した設計

※8 オートメーション技術による生産性改善や安定操業に寄与することに加え、脱炭素化、資源循環、生物多様性保全の3つの環境重点分野において、社会やお客様の環境課題を解決し、持続可能な社会の実現に貢献できるフィールドエンジニアリングサービス

※9 3つの環境重点分野での課題解決実現に向けて重要な、以下の専門スキル保有者(社内資格制度)を対象とする  
 ・ビル建物向けのリモートメンテナンス、エネルギーマネジメントサービス、クラウドサービスなどのネットワークサービスのライセンス取得者  
 ・プラント・工場向けの高度制御、省エネルギーソリューション技術、バルブメンテナンスのプロフェッショナル認定者

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

	2023年度実績	参照
<p><b>環境課題への貢献(環境統合型経営<sup>※6</sup>の実現)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地球環境に配慮した商品・サービスの創出・提供                     <ul style="list-style-type: none"> <li>全ての新製品を <b>azbilグループ独自のサステナブルな設計<sup>※7</sup></b>とする</li> <li>azbilグループの提供するサステナブルなサービス<sup>※8</sup>を支える <b>プロフェッショナルスキルを持つ人財<sup>※9</sup></b>を、2021年度比で<b>3倍の延べ1,800名<sup>※10</sup></b>にする</li> </ul> </li> <li>天然資源<sup>※11</sup>の有効活用と廃棄物発生量の削減                     <ul style="list-style-type: none"> <li>全ての新製品を <b>100%リサイクル可能な設計<sup>※12</sup></b>とする</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客様の現場におけるCO<sub>2</sub>削減効果284万トンCO<sub>2</sub>/年</li> <li>GHG排出量(スコープ1+2)2017年度比40%削減</li> <li>GHG排出量(スコープ3)2017年度比20%削減</li> <li>全ての新製品でazbilグループ独自のサステナブルな設計を実施</li> <li>プロフェッショナルスキルを持つ人財760名</li> <li>約1割の新製品で100%、約5割の新製品で75%リサイクル可能な設計を実施</li> </ul>	<p>環境</p> <p>▶ <b>p67-74</b></p> <p>「サステナブルなサービス」をKPIに、プロフェッショナル人材の拡大を図る</p> <p>▶ <b>p33-34</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>2030年に延べ<b>8,000事業所<sup>※13</sup></b>で事業環境変化に強い状態を実現</li> <li>2030年に延べ<b>600万人<sup>※14</sup></b>にストレスフリー、多様な働き方につながる環境を提供</li> </ul>	<p>クラウド型バルブ解析診断サービス、<b>ビッグ アイ</b> EYES、ビル向けクラウドサービス、SMaaSなどを展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>延べ 927事業所(前年度比+120事業所)の事業環境に貢献</li> <li>延べ 86.1万人(前年度比+10.2万人)の居住環境・オフィス環境に貢献</li> </ul>	<p>クラウド型バルブ解析診断サービス Dx Valve Cloud Service</p> <p>▶ <b>p31-32</b></p> <p>デジタルトランスフォーメーション(DX)</p> <p>▶ <b>p49-50</b></p>
<p><b>地域活性化への貢献(事業拠点を軸とした社会貢献)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域に根差した社会貢献活動を全ての事業所<sup>※15</sup>において実施し、<b>社員一人ひとりが積極的に参加<sup>※16</sup></b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権デュー・ディリジェンスによるお取引先様の安全衛生管理等の改善までを概ね完了、CO<sub>2</sub>排出量削減に向けたお取引先様への啓発と要請を実施。活動をグループ全体に展開中</li> <li>事業所の近隣地域における協賛イベントや教育支援活動への社員参加を推進、アズビル山武財団との連携活動を実施</li> </ul>	<p>サプライチェーン</p> <p>▶ <b>p75-78</b></p> <p>ステークホルダーエンゲージメント</p> <p>▶ <b>p95-96</b></p>
<p><b>学習する企業体の発展・強化(グローバルに活躍する人材の継続的育成とステークホルダーと共に学ぶ機会の拡大)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一年間で仕事を通じて成長を実感する社員<b>65%以上<sup>※17</sup></b></li> <li>2024年までに研鑽機会ポイント<sup>※19</sup>を<b>2倍</b>にする(2012年比)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性活躍ポイント 2.3倍</li> <li>azbilグループで働くことに満足している社員 57%</li> <li>研鑽機会ポイント 5.5倍 (内訳)リアルタイム型(ライブ型):1.8倍 Web型(eラーニングなど):8.1倍</li> <li>仕事を通じて成長を実感する社員 59%</li> </ul>	<p>人的資本</p> <p>▶ <b>p61-66</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>商品安全・品質、コンプライアンスについては、「azbilグループCSR推進会議」において、部門ごとに業務に直結した指標および目標をCSR活動計画として設定</li> <li>コーポレート・ガバナンスについては、2022年、指名委員会等設置会社へ移行し、社外取締役を過半数とする取締役会および3つの法定委員会の体制の下、適切な監督と実効性を確保</li> </ul>	<p>コーポレート・ガバナンス</p> <p>▶ <b>p81-94</b></p>	

※10 社員一人ひとりがフィールドエンジニアリングサービスの技術革新に合わせ、複数のプロフェッショナルスキルを取得した場合も含んだ資格保有者の延べ人数

※11 天然に存在して、人間の生活や生産活動に利用しうる物資・エネルギーの総称

※12 BAT (Best Available Technology: 経済的および技術的に実行可能な最も効果的な技術)の範囲

※13 2022年4月時点で530事業所で稼働。2030年には15倍の8,000事業所を目指す

※14 2022年4月時点で60万人に提供。2030年には10倍の600万人への提供を目指す

※15 国内・海外を含む全事業所

※16 azbilグループ社員数規模の参加を目指す

※17 国内のazbilグループで毎年行っている社員満足度調査で高いレベルと考えられる65%、すなわち、全社員の2/3の水準を目指す

※18 女性の役員、役職者、管理職等役割に応じたウエイトをつけて独自に集計したポイント

※19 社内外のステークホルダーとともに学ぶ機会(回数および参加人員数)を独自に集計したポイント

# 価値創造モデル

社会課題 社会や個人の多様化の進展 技術革新の潮流 (テクノロジー)の変化 地球環境問題・パンデミック発生リスク拡大等 人口動態の変化 (労働人口の変化)



※1 講座にはCSRなどの共通教育、個人選択の通信教育等を含み、受講者数にはグループ会社ほか協力会社・販売店等の社員を含む  
 ※2 公的資格のうち、事業運営等で重要度の高い資格を取得したアズビル株式会社の社員

お客様の变化    オフィス利用の多様化・ウェルネス    建物・生産設備・インフラの高度化・多様化    省エネルギー推進・CO<sub>2</sub>排出量削減の必要性拡大    熟練者の減少・技能伝承    インフラ老朽化・安全確保

## OUTPUT 主な製品

## 中期経営計画注力ポイント

## OUTCOME 提供価値

**ビルディングオートメーションシステム**

お客様：**建物オーナー、建設業**

オフィスビル、研究所、工場、データセンター、ホテル、ショッピングセンター、病院、学校、空港等

ハルブ、コントローラ

センサ、計測機器

**ハルブ、ボジショナ**

お客様：**製造業**

石油化学・化学、石油精製、電力・ガス、鉄鋼、ごみ処理・上下水道、紙パルプ、船舶、食品、薬品、自動車、電気・電子、半導体、各種製造装置

調節計、各種センサ

監視・制御システム

**医薬品製造装置**

お客様：**ガス会社、自治体、医薬品製造、住宅メーカー**

都市ガス、LPガス、水道、医薬品、一般戸建住宅

各種ガス、水道メーター

中期経営計画に(2021-2024年度)における強化ポイント(変革の加速)

- 商品力
- 技術開発・設備投資
- 人的資本投資

長期目標・中期経営計画 → p35-

リスクマネジメント → p79-

**事業を通じたSDGsへの貢献**

- お客様の現場におけるCO<sub>2</sub>削減効果目標
- 温室効果ガス排出削減目標(スコープ1+2)(スコープ3)

全ての新製品を

- azbilグループ独自のサステナブルな設計とする
- 100%リサイクル可能な設計とする

- 延べ8,000事業所で事業環境に強い状態を実現
- 延べ600万人にストレスフリー、多様な働き方につながる環境を提供

- azbilグループの提供するサステナブルなサービスを支えるプロフェッショナルスキルを持つ人材を2021年度比で3倍の延べ1,800名にする

**財務目標(2030年度)**

- 売上高 4,000億円規模 [うち海外: 1,000億円規模]
- 営業利益 600億円規模
- 営業利益率 15%程度
- ROE 13.5%程度

**ステークホルダーへの提供価値**

**安心**  
安心して、健康に暮らせる、仕事ができる。

**快適**  
いつでも快適に過ごせる、仕事ができる。

**達成感**  
お客様と新たな価値を創造する

**地球環境への貢献**  
エネルギーを最適に管理・運用できる。

**経済価値**  
持続的成長、企業価値の向上、還元によるステークホルダーに対する経済的付加価値の再配分。

持続可能な社会への貢献

※3 算定範囲:アズビル株式会社、および連結子会社  
 ※4 算定範囲:アズビル株式会社、国内連結子会社および海外主要生産拠点

# 6つの資本 azbilグループの経営資源・価値創造の源泉

azbilグループは、持続可能な社会へ「直列」に繋がる貢献、企業価値の持続的な向上に取り組んでいます。長期目標・中期経営計画の達成に向けて、「商品力強化(製品・サービス)」「技術開発・設備投資強化」「サステナビリティ経営の推進 人的資本への投資強化」に注力しつつ、価値創造の源泉となる6つの資本を持続的に高める取組みを推進しています。

## 人的資本

多様な人材による価値の創出と  
成長支援

従業員数(連結)

**9,909**人

(2024年3月末)

アズビル・アカデミー年間受講者数

**170,000**人

(延べ人数)

公的資格(重点資格)の有資格者数

**2,743**人

(延べ人数)

## 社会関係資本

様々なステークホルダーとの  
信頼・協力関係を活かした価値創造

営業・サービス拠点

**23**カ国/地域

国内 **13**社

海外 **45**社

## 知的資本

社会・お客様の課題解決につながる  
製品・サービスを生み出す商品力強化

研究開発費

**507**億円

(2021~2023年度実績、2024年度計画)

研究開発拠点機能強化設備投資

建設費 **70**億円

(2021~2022年度実績)

特許

**2,862**件

(2024年3月末)

### 健全経営を推進、多様な人材による 独自の価値の創出

働き方改革とダイバーシティ推進を両輪とする総合的な取組みを「健全経営」と定義し、多様な人材がグローバルに活躍し、価値創造に向けた環境づくりに取り組んでいます。多様な人材と整備された組織・環境を競争力の源泉として、学習する企業体としての成長を実現することで社会・社員のWell-being実現を目指します。

→ p61-66 人的資本

### 社員エンゲージメント向上に向けた 福利厚生・財務施策

価値観を共有し、全員で価値創造に取り組むことができるように財務施策でも様々な取組みを進めています。社員株式給付制度についても、社員の福利厚生がさらに充実し、当社の株価や業績との連動性をさらに高める改定を決定しました。

→ p19-22 副社長メッセージ

### お客様やパートナー企業との 協働・協創

グローバルに営業・サービス拠点を置き、その地域・市場の要請に応じたソリューションをお届けしています。社会課題の解決を含め、様々なニーズにお応えするため、お客様との共同開発や大学やベンチャー企業等との共同研究・事業提携を通じて、相互の技術や知見を活用・融合することで新たなソリューション・事業を生み出しています。

→ p41-42 ビルディングオートメーション(BA)事業

→ p47-48 特集 グローバル戦略

### サプライチェーン全体での 環境保全、人権尊重の取組み

独自のSDGs目標も設定し、環境保全等に対して、お取引先様とともに社会的責任を果たすべく取り組んでいます。

→ p19-22 副社長メッセージ

### 「計測と制御」技術の進化に向けた 投資継続、開発人材強化

当社グループの強みの一つである「計測と制御」技術の進化に向けて研究開発拠点藤沢テクノセンターの機能強化・開発環境の整備を継続して進めています。また、タレントマネジメントシステムなどを活用し、人材の獲得、育成に取り組んでいます。

→ p51-56 研究開発(技術開発・商品開発)

### DX推進による付加価値創造

クラウドを活用した多様な商品の開発に加え、生成AIを活用した社内業務効率化等を進めています。例えば、Dx Valve Cloud Service(写真)は多数のお客様にご採用いただき実績をあげています。



→ p31-34 特集 先進技術と人材が支える azbilグループならではのソリューション

→ p49-50 デジタルトランスフォーメーション(DX)

## 製造資本

高い生産技術を  
グループ、グローバルで共有・展開

製造拠点  
国内 **10** 工場  
海外 **9** 工場

## 自然資本

自社での環境負荷低減に向けた取組みと  
お客様の現場での環境負荷低減支援

エネルギー総消費量  
**69,897** MWh  
水使用量  
**127** 百万L

## 財務資本

健全な財務基盤の維持と  
資本効率を意識した資源投入

総資産  
**3,137** 億円  
(2024年3月末)

### マザー工場を中心に グローバル生産体制を構築

アズビルの湘南工場と藤沢テクノセンターを連携し、これをマザー工場として、グローバルな生産体制を構築、高度な生産技術の展開等を図っています。

### グローバル生産拠点強化

グローバルでの事業拡大、地政学的リスクへの対応として、生産拠点の拡大、分散を図っています。  
2023年度は中国大連工場に続いてタイ生産拠点(写真、2024年4月竣工)の拡充を行いました。



→ p57-58 生産・調達

### 脱炭素移行計画とお客様の 現場におけるCO<sub>2</sub>排出量削減

2050年ネットゼロに向けた脱炭素移行計画を策定しています。また、azbilグループの製品・サービスの提供を通じて、お客様の現場でのCO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます。

### 地球環境に配慮した 商品・サービスの創出・提供

お客様や社会における地球規模の環境課題(脱炭素化、資源循環、生物多様性保全)解決に貢献するサステナブルな商品(製品・サービス・ソリューション)の提供に向け、独自のSDGs目標を設定し取り組んでいます。



→ p67-74 環境

→ p31-34 特集 先進技術と人材が支える azbilグループならではのソリューション

### 資本コストを意識した ROIC 経営の推進

資本コストを意識した規律ある財務戦略を維持していくために、ROE目標を掲げて、コミットメントしています。そのうえで、資本の分配を合理的に進めるためにROICを取り入れた経営管理を進めています。

### LA事業における 事業ポートフォリオ再構築

ROICを活用し事業ポートフォリオの最適化に向けた取組みを進めてきました。収益性の低下が課題であったLA事業については、同事業を構成するライフサイエンスエンジニアリング分野のアズビルテルスターの出資持分すべての第三者への譲渡を決定しました。

→ p19-22 副社長メッセージ

→ p45-46 ライフオートメーション(LA)事業

特集

# 先進技術と人材が支える azbilグループならではのソリューション

— 先進技術とエンジニアリング、サービスに携わる人材とそのノウハウの  
融合によって独自の付加価値を創出

近年、気候変動や少子高齢化、働き方を含めた社会・個人の多様化や新型コロナウイルス感染症拡大による安全・安心ニーズの高まりなど、私たちを取り巻く環境が大きく変化するなか、お客様も自らの事業モデルを変革し、新たに生まれる課題への対応を進めています。こうした社会とお客様の課題解決・変革を支援できることがオートメーション事業の価値であり役割であると考えています。新たな課題が生まれ、オートメーションが果たすことのできる役割の拡大は、私たちの事業機会の拡大でもあります。azbilグループは、オートメーション技術を基盤に、当社グループならではの製品・サービスを活かすことのできる「新オートメーション事業」「環境・エネルギー事業」「ライフサイクル型事業」という3つの成長事業領域に注力しています。

この3つの成長事業領域で社会・お客様に最適なソリューションを提供していくためには、先進的なオートメーション機器・システムだけでなく、高度なエンジニアリングやメンテナンスサービス力が欠かせません。当社グループが保有するMEMSやAI技術等の知的資本に加えて、技術開発者、フィールド・サービスエンジニアなどの人的資本が、当社グループならではのソリューションの提供を支え、特徴付けています。

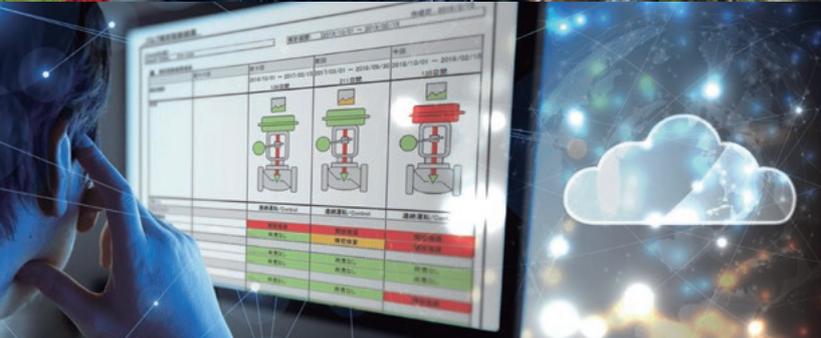
その一例であるクラウド型バルブ解析診断サービス Dx Valve Cloud Service は、新オートメーションとライフサイクル型事業の両面を持ち、先進技術と長年にわたりフィールドで蓄積したバルブに関する技術・ノウハウが融合した当社グループならではのサービスです。新オートメーションの「心」は、安心・安全の「心(シン)」であり、信頼の「信(シン)」でもあります。バルブの健康状態を可視化し、従来なら気付けなかったバルブの異常兆候を早期に検知、プラントの安全・安定稼働、保全の最適化に貢献する当社グループならではのこのサービスは、ご評価いただき、ご導入されるお客様が増加しています。

## クラウド型バルブ解析診断サービス Dx Valve Cloud Service

### バルブメーカーとしての先進技術を活かし、バルブの安全・安定稼働や保全最適化に貢献

石油関連プラントや化学プラント、鉄鋼、紙パルプ、食品、製薬等の工場では、流量や圧力、温度、液位を制御しています。仮にバルブの不調により生産がストップしたり、万が一プラントの爆発等の災害が発生すれば多大なる損失をもたらします。そのため、長年にわたり安全・安定操業が求められるプラントや工場のバルブは定期的な点検や調整が欠かせません。一方、広大な敷地に点在する多くのバルブを頻繁に毎日人の手で点検するのは膨大な時間とコストがかかります。その課題を解決するのが、Dx Valve Cloud Serviceです。azbilグループがお客様の現場(フィールド)で長年にわたり蓄積してきた情報・データに基づくバルブの異常の有無や劣化の進行状況を把握する技術によって、バルブの健全性を診断し、その結果を24時間いつでもクラウドサービスによって見ることができます。バルブの稼働データがクラウドに自動送信され、解析されるため、お客様は「必要なときに」「必要なカタチで」「必要なシーンで」、バルブのいわゆる“健康診断”結果を確認することができます。これまではバルブ内部の状態が見えないために開放点検しなければ分からなかったバルブの異常の早期発見や予測を行うことが可能となり、バルブが原因となるトラブルを未然に防止し、生産設備安定化に貢献しています。

以前から診断ツールの利用によりバルブの状態監視を行うことは可能でしたが、データの解析・診断等には経験やノウハウが要求され、診断ツールの運用や診断作業もお客様自身が行う必要があり、大きな負担となっていました。こうした課題に対しDx Valve Cloud Serviceではダッシュボードなどで診断結果を可視化するため、解析や診断作業に伴う特別な技術やノウハウが不要で、かつバルブの健康状態をいつでも把握することができます。ユーザーは状態基準保全(CBM: Condition Based Maintenance)を考慮した最適なメンテナンス計画を容易に立案することが可能となっています。



**バルブの健康診断結果を  
3つのコンセプトで  
提供します。**

- [必要なときに]  
バルブ異常兆候発生時や保全計画立案時に確認
- [必要なカタチで]  
メール、Webダッシュボードやレポートで確認
- [必要なシーンで]  
事務所、現場、テレワーク、どこでも確認

**お客様導入事例 新たなメンテナンスのあり方「状態基準保全(CBM:Condition Based Maintenance)」への取り組み**

**ひびきエル・エヌ・ジー株式会社 (西部ガスグループ)**

**バルブ診断技術により  
効果的なCBM実現**

同社では従来、主要プラントのバルブ点検において時間基準保全(TBM:Time Based Maintenance)による維持管理を実施し、バルブの劣化状況は、プラントを一時的に停止しバルブを開放点検することで確認してきました。今回、Dx Valve Cloud Serviceの導入により、Webコンテンツ上でバルブの状態に関する解析診断レポートを毎週確認、バルブの開放点検を行うことなく劣化状況により早く気付くことが可能となりました。同社では、これまでのTBMに代わり、Dx Valve Cloud Serviceの解析診断レポートを活用したCBMを実施することにより、これまで課題となっていたバルブの点検時間を削減するとともに故障検知の迅速化を目指しています。また定期的なレポートを活用することで、メンテナンス計画に要する時間を削減、メンテナンスの効率化とプラントの生産性向上を図ります。



ひびきエル・エヌ・ジー株式会社



ひびき LNG 基地と Dx Valve Cloud Serviceを構成する当社スマート・バルブ・ポジション

**三菱ガス化学株式会社**

**3生産拠点(新潟、鹿島、浪速)に  
Dx Valve Cloud Serviceを導入  
高度な安定・安全操業を可能とする  
「SMART-FACTORY」の実現に貢献**

三菱ガス化学株式会社では、中期経営計画「Grow UP 2023」に基づき、デジタル技術を活用した生産部門や間接部門の業務効率化と最適化を図る「SMART-MGC」プロジェクトを開始し、生産部門においては、従来の手法で実現が難しかった高度な安定・安全操業を可能とする「SMART-FACTORY」の実現に取り組んでいます。その取り組みのなかで同社は、以前より当社の調節弁メンテナンスサポートシステム PLUG-IN Valstaffを調節弁の内部への異物付着による作動不良の早期発見や、プロセスを安定に制御させるための調節弁の仕様見直しなどに活用してきました。今回、同社がDx Valve Cloud Service導入により、今まで以上に調節弁の状態異常の早期発見・原因特定を行い、予期せぬ突発トラブルの未然回避の実現を目指しています。今後、同社はDx Valve Cloud Serviceの導入範囲をさらに拡張し、調節弁の整備計画をTBMからCBMへ移行することで、メンテナンス時期・費用の最適化を計画しています。



調節弁稼働データはクラウドへ送信され、CBMによる調節弁の整備計画策定を行う

## 技術開発から、 エンジニアリング、 サービスに至る一貫体制

ご紹介したDx Valve Cloud Serviceをはじめとするサービスを実現しているのが、技術開発からエンジニアリング、サービスに至る一貫体制です。「新オートメーション事業」「環境・エネルギー事業」「ライフサイクル型事業」。これらオートメーションを共通基盤とした成長事業領域への取組みを推し進めることにより、私たち azbilグループは、ビルディングオートメーション(BA)、アドバンスオートメーション(AA)、ライフオートメーション(LA)各事業での成長を実現していきます。ビル環境におけるウェルネス、生産における高度なものづくりの実現等、新たなニーズに応えるソリューションである新オートメーション事業では、今後も積極的な投資が見込まれます。環境・エネルギー事業においても、カーボンニュートラルへの対応等、従来の省エネルギーに留まらない追加の投資が見込まれます。

一方、これら成長事業領域で求められる、ソリューションの態様は社会・お客様の課題によって多種多様です。お客様の資産(設備・機器)の状況に合わせて、新規に製品をお届けするだけでなく、数十年にわたってメンテナンスや改修を行っていく必要があります。

私たちは、「技術開発・商品開発」「生産・調達」「コンサルティング・営業」「エンジニアリング・施工」「サービス・メンテナンス」までの一貫体制を敷き、現場での課題共有から始まり、これらが密接に連携しあう体制を整え、現場を熟知したプロフェッショナル人材が、お客様の資産の状況に合わせた、その時々最適なソリューションを提供しています。計画・運用・保守・改善・リニューアルといったライフサイクルの各段階における様々なニーズに対応するため、高い技能を持ったセールスエンジニア、システムエンジニア、フィールドエンジニア、サービスエンジニアがグローバルにそれぞれの現場で最適なソリューションの提供に取り組んでいます。先進の機器・システムに加えて、実際にお客様の現場でソリューションを提供できる体制、人材がazbilグループのソリューションを特徴付けています。



### 「サステナブルなサービス」をKPIに、プロフェッショナル人材の拡大を図る

azbilグループは、現場(フィールド)で活躍できる人材の育成、技能継承を、グループの強みの一つとして、ひいては持続可能な社会へ「直列」に貢献するものとして力を入れています。このため、2024年5月、独自で掲げる azbilグループ SDGs 目標の一つである「環境・エネルギー」を具体的に推進するターゲット「地球環境に配慮した商品・サービスの創出・提供」の新たな定量指標として、「azbilグループの提供するサステナブルなサービスを支えるプロフェッショナルスキルを持つ人材を、2021年度比で3倍の延べ1,800名\*にする」を設定しました。SDGs 目標達成へ向けた取組みを通じて、事業および人材育成・成長の観点も含めた azbil グループならではの価値創造を実現し、持続可能な社会へ「直列」に繋がる貢献を目指しています。今回新たに追加した指標では、持続可能な社会の実現に貢献するフィールドエンジニアリングサービスを支える人材育成を図ることで、お客様の現場でオートメーション技術による生産性改善や安定操業に寄与します。また、当社グループの3つの環境重点分野(脱炭素化、資源循環、生物多様性保全)において、地球環境に配慮した製品・サービスの提供を推進していきます。

\* 社員一人ひとりがフィールドエンジニアリングサービスの技術革新に合わせ、複数のプロフェッショナルスキルを取得した場合も含んだ資格保有者の延べ人数

## 営業・エンジニアリング・施工

建物やプラント・工場の現場でお客様が抱える様々なニーズや課題を共有し、その分析から解決策のご提案、そしてシステム設計から実際の現場での施工、調整までを一貫した体制で行います。例えば、BA事業が取り組む建物の空調制御には、オフィスなどの施設用途特性や地域特性に応じた課題があります。azbilグループは長年にわたって蓄積したノウハウと実際の運用データをもとに、施設用途や運用形態に基づき最適なBAシステムから省エネソリューションまでをご提案します。併せて、現場ではエンジニアリングとともに工程の安全、品質、コストなどの施工管理を行い、お客様のご要望ごとの制御を実現します。AA事業が取り組む製造現場のお客様のご要望も様々で、IoTなどの技術潮流の変化を受けて大きく様変わりしています。工場・プラントのシステム構築から製造工程改善・省エネ提案まで、常にお客様と一緒に課題の解決策を探索し、お客様にとって最適な製品・アプリケーションの提案を行います。

## サービス(保守・メンテナンス)

お客様の建物・プラント・工場等における設備やシステムに精通したサービスエンジニアが最適運転に向けた定期点検、保守を実施するとともに、緊急時の問題にも迅速に対応しています。また、お客様の声を迅速かつ確実にグループ内で共有し、製品・サービスに反映することで現場での業務価値の向上や効率化を図っています。さらに、従来の労働集約型サービスから豊富なデータ・実績に基づいたソリューション提案を主体とした知識集約型サービスへの変革を推進しています。海外においても国内同様のサービスを提供すべく、体制の整備・強化、および人材育成を進めています。DXを活用したエンジニアリングサービスの提供基盤と経験と卓越した技能を持つ人材により、お客様のQCDSE (Quality/品質、Cost/原価、Delivery/工期、Safety/安全、Environment/環境) 目標の達成に貢献します。

azbilグループ SDGs目標1 (2030年度目標)

環境・エネルギー

**サステナブルなサービスを支える  
プロフェッショナルスキルを持つ人材を、  
2021年度比3倍の延べ1,800名にする**

### ▶ サステナブルなサービス

オートメーションの技術によりお客様の現場の生産性改善や安定操業に貢献することに加え、当社グループの3つの環境重点分野(脱炭素化、資源循環、生物多様性)において、社会やお客様の環境課題を解決し、持続可能な社会の実現に貢献できるフィールドエンジニアリングサービス

### ▶ プロフェッショナルスキル

3つの環境重点分野での課題解決実現に向けて重要な、以下の専門スキル保有者(社内資格制度)を対象とする

- ビル建物向けのリモートメンテナンス、エネルギー管理サービス、クラウドサービスなどのネットワークサービスのライセンス取得者
- プラント・工場向けの高度制御、省エネルギーソリューション技術、バルブメンテナンスのプロフェッショナル認定者